

西村幸吉議員

次期総合計画

市長公約、マニフェストをどう盛り込んでいくのか。

私の政治信条に基づく政策を実現するために、計画期間中の実現性を勘案しつつ、調整を加え、公約を有効性のある施策に転換し、総合計画の施策体系に位置づけていきたいと考えています。(市)

地域コミュニティ

コミュニティセンターの設置について進捗は。

現在の財政状況や八千代市公共施設等総合管理計画を考慮しつつ検討を進めていきたいと考えています。(総)

上高野地区の方々から多くの要望が寄せられているコミュニティセンターの設置について、次の総合計画に盛り込み、早期の実現を。

介護保険サービス

介護職員の確保のための支援の取り組みは。

平成29年度から介護職員初任者研修に要する経費に対する補助を開始しています。今後も他市の取り組み等を参考に調査・研究していききたいと考えています。(健)

中央図書館

自動出納書庫の設置は。

導入に向け、関係機関と協議していきたく考えています。(教)

澤田新一議員

公共施設整備について

児童発達支援センター・すてっぷ21大和町の施設整備計画は。

昨年11月に近隣住民の方へアンケートを実施。令和2年度既存建物の解体設計と並行し、新設の基本設計・実施設計を行い、令和3年度に解体工事を行い、令和4年度中に新設の建設工事着手の予定となっており、令和5年度中の開所を目指しております。(子)

していただき、特に近隣住民の方々や関係者に対しては丁寧な対応をお願いするとともに、寄せられたご意見を考慮しながら、説明会等を開催し近隣住民の方の理解と協力を得ることを要望。

空き家対策

空家家等対策計画の策定・空家家対策協議会設置の見通し

令和2年第1回定例会で条例を制定し「八千代市空家家等対策協議会」を設置する。協議会の設置とあわせて、令和2年度に空家家等対策計画の策定を予定しております。(都)

協議会設置とあわせて空家家バンクを創設すれば、市街化調整区域内の「農地付空家家」の流通が可能となると考えるため、空家家バンクの創設を要望。

小澤宏司議員

新川周辺におけるまちづくり

新川周辺における民間事業者の取り組みに、市としてどのように関わっていくのか。

印旛沼流域かわまちづくり計画におけるソフト施策として、民間企業と連携したアクティビティ、水辺カフェ等の導入などを位置づけており、活用事例を調査研究し、施策の推進につなげていきたいと考えています。(企)

県立八千代広域公園

整備の完了はいつごろか。

令和5年度の完了を目指し、事業の推進に努めていくとのことです。(都)

大和田のまちづくり

大和田駅の踏切について、現道の整備で対応できないのか。

区画整理事業にかわる手法を検討するとともに、踏切を含めた現道の整備について、県や鉄道事業者と調整していききたいと考えています。(都)

令和元年台風15号、台風19号及び10月25日大雨への対応

大和田南小学校地下調整池は、台風の際に使用したか。現在、雨水を導く新設管を布設

する工事を進めているところで、既設雨水管渠の接続を切りかえ、一部の地域の雨水を流入させて暫定的な運用をしています。この度の台風の際も調整池に貯留し、大雨等が過ぎた後に、ポンプ施設にて八千代1号幹線へ強制排水しました。(水)

今後、新たな被災者への支援を行う予定はあるのか。

被災住宅への支援として、住宅の修繕工事費の一部を補助するほか、被災農業者への支援として、農業施設などの再建、修繕や撤去費の一部を補助する予定です。(総)

地域ポイント制度

今後どのようにしていくのか、市の考えは。

地域ポイント制度の実証実験の効果検証等を踏まえ、方向性を決定していきたく考えています。(経)

花島美記議員

シティセールス

「やちちブランドセレクション」の今後の展開は。

今年度新たに認定を行う民芸品や工芸品などとあわせ、昨年度の認定品を、市内の大型店3店において、展示販売を実施し、商工業の振興と活性化に努めます。(経)

国際交流

アメリカ合衆国テキサス州タイラー市との今後の姉妹都市交流の方向性を、どのように考えているのか。

国際交流協会と密に連携を図りながら、これまで両市が歩んできた姉妹都市の歴史と交流事業を、より多くの市民に知っていただけるよう努めていきます。(企)



盛岡市は、人口減少、少子高齢化が進む中、「選ばれるまち」になるため、平成18年、「盛岡ブランド」推進計画を策定。当市もまもなく人口20万都市となり、「八千代らしさ」で差別化を図り、移住定住促進を図りたく、先進自治体の事例を視察した。地域ブランド構築のため以下の3項目を目指し取り組んできた。①「盛岡の有形・無形の地域資産」の魅力を掘り出し、育み、磨き上げ、市外に発信する。②「盛岡らしさ」で他市と差別化、市内外から価値があり、選ばれるまちと評価されることでの活性化。③市民が「盛岡らしさ」の価値観を共有し、誇りと愛着を持って暮らすこと。シティープロモーションにおいては、県外向けのみならず、市民にも「盛岡ブランド」を浸透させ、「CIVIC PRIDE」を育み、自分の住む街の価値を再定義することに繋がっている。

行政視察 岩手県盛岡市 盛岡ブランド推進計画



岩手県滝沢市 交流拠点複合施設「ビッグルーフ滝沢」

「ビッグルーフ滝沢」は、当初「総合福祉センター」として整備が進められていたが、単なる箱物ではなく、新たな文化、産業の育成や賑わいを創出する施設へ方向転換。ホールや「コミュニティセンター」、「図書館」、観光情報&地産地消「アンテナショップ」が配置された複合施設として平成28年オープン。自主事業年間500本を実施。防災拠点としての配慮もある。イベントは、楽しいイメージ、おいしい食べもの、美しい音楽(文化)が無ければ人は来ない、という考えに基づき「稼ぐ」施設にするという観点は見習うべきところ。当市としても、公共施設の老朽化、使用目的の多様化による統廃合を検討する際、市民意見の反映方法、財源、運営管理などは是非参考にしたい。

秋田県 由利本荘市 学力向上の取り組みについて

由利本荘市をはじめ秋田県は全国学力テストトップレベルを誇る。その教育行政を視察し、来年度からの新学習指導要領や、小中一貫校等への当市の取り組みの参考といたく視察。基本目標として、「人間性豊かで進取の気性に富む、たくましい子どもの育成」を掲げ、合わせて科学的な探求心を育み、確かな学力を身に付けさせる教育の推進に取り組んでいる。地域力を活かし学校づくりと学校力を活かし地域づくり、基盤・理念として、ふるさと教育、子どもに寄り添い、教え、導くこととしている。また、学力向上の要因のひとつとして家庭学習を重要視していることが分かった。三世代同居が多いという地域特性に依るところだが、ベッドタウンで核家族が多い当市で同様の指導は難しいところだが、学校任せ、保護者任せにせず協働して、子どもが自宅学習できる環境を整える取り組みは学ばべきところである。

